
筆山

第2号/1986・7



↑ '86新年総会にて

土佐中・高同窓会 関東支部会報

〒112 東京都文京区水道1-10-7 同学社気付
☎03-816-7011 編集人 小松勢津子(35回)

二百人が青春した夕べ

86新年総会風景



塩田潮氏の講演も

土佐中・高同窓会関東支部の一九八六年総会が一月二四日、母校から松浦殿校長、同窓会本部から片岡博彦幹事長、関西支部から北村支部長を迎え、東京・銀座東急ホテルで開催された。北岡龍海支部長挨拶、会則・役員承認、校長挨拶などに続き、ノンフィクション作家、塩田潮氏（40回）の時宜を得た講演が行われた。

そのあと、会場を別室に移し、懇親会が行われた。本年は、昨年のように積極的な出席勧誘をしなかったにもかかわらず、二百余名の出席を得た。これは、総会に出れば必ずなつかしい顔に会えるという評価が定着したものと見えよう。あたりはばからぬ。おらんくことは、が読者はつこした楽しい一夜だった。





6月23日と24日にした事



竹邑 類

(演出家/35回)

六月二十三日、ミュージカル「ロッキー・ホラー・ショウ」の稽古も、初日をあと一週間に控え、バンドも入り活気と熱気を帯びてきた。桑名正博、夏木マリ、藤木孝等キャストも、生バンドのパワフルな音響に後押しされて、歌にも踊りにも芝居にも新しい発見が見え、緊張感と楽しさのあふれる雰囲気が増えつつあった。このミュージカルもまた、一年からの鈴木プロデュースとの企画、ロンドンからの版權取寄せ、スタッフ・キャストの人選、劇場の手配、宣伝の方法等、プロデュースと演出との相互打合せが続き、やっと初日の幕が間もなく開くとい

う日迄こぎつける事ができた。新聞・雑誌・TVの取材の応待等、稽古以外の雑事も増えて、一日中慌しく動き廻る。

六月二十四日、朝十時、風邪薬「ベンザ」のCFの為の振付の打合せ。小泉今日子ちゃんが踊るそうだ。森下町のベニサンスタジオも今日が最後の日、一時間始めに駆けつける。電話で僕の主宰するスーパー・カムパニイ九月公演「マクベス」の宣伝写真どりの日時変更の連絡を受け取り、再びスケジュールの調整を計る。

●今、こんなことやってます②
七月一日の夜九時半に決定。しかし、その日は現在並行

して演出しているニュー・オータニのザ・クリスタル・ルーム七月公演「前田美波里ショウ」の初日の日なのだ。時間を縫ってスタジオに駆けつけ、事になる。まるで売れっ子タレントのようだ(?!)

「ロッキー・ホラー・ショウ」はバンドが入って二日目なので、コーラスもPAも随分良くなった。明日からは劇場に入ってゲネプロ(舞台稽古)だ。装飾や照明、衣装も揃って、このパロディックでナウいミュージカルの仕上げを練るヤマ場に差しかかる。一年中、こうやって企画、稽古、初日、公演と何本も何本もオーバーラップして濃密な時間が過ぎてゆく。その事が生きていく上の僕の楽しさ、そして生きる証のような気がする。でも、もう少し、但例のヴァカンス、バリ島の太陽に会えるぞ。

土佐中・高等学校同窓会関東支部会則

〔名称および事務局〕

第一条 この会は土佐中・高等学校同窓会関東支部と呼ぶ。

第二条 この会の事務局は岡山学社内に置く。

〔会 員〕

第三条 この会の会員は、土佐中・高等学校の卒業生で東京・神奈川・埼玉・千葉・茨城・栃木・静岡・山梨・群馬の1都8県に在住する者とする。ただし、これ以外の地区に在住者や中途転学者であっても希望者は会員の資格を有する。

〔目 的〕

第四条 この会は、会員相互の親睦を図り、あわせて同窓会本部と連携を保ちつつ母校の発展に貢献することを目的とする。

〔役 員〕

第五条 この会に次の役員を置く。

1. 支部長 1名
2. 幹事長 1名
3. 副幹事長 2名
4. 事務局長 1名
5. 会計 1名
6. 学年幹事 1回～27回各1名。28回以降各2名。
7. 常任幹事 20名前後
8. 会計監査 2名
9. 顧問 若干名

第六条 学年幹事は各回ごとに会員が選出する。

支部長、幹事長、副幹事長、事務局長、会計、会計監査は学年幹事会で選出し、常任幹事は幹事長が任命する。また、顧問は支部長が委嘱する。

第七条 1. 支部長はこの会を代表し、会務を総理する。

2. 幹事長は幹事を代表し、各回の意向をこの会に反映する。また支部長に事故のあった場合には支部長の任務を代理する。

3. 副幹事長は幹事長を補佐する。

4. 事務局長は事務全般を担当する。

5. 会計は経理を担当する。

6. 学年幹事は各学年の代表として各回の意向を反映し、会の中心となり円滑な運営に参加する。

7. 常任幹事はこの会の企画推進にあたる。

8. 会計監査は会計を監査し学年幹事会にこの経理を報告する。

9. 顧問はこの会に関する諸事項について必要あるとき支部長から相談を受ける。

第八条 役員の任期は2年とし、重任をさまたげない。

〔会 議〕

第九条 この会の会議は総会、学年幹事会、常任幹事会とする。

第十条 支部長は毎年一度総会を召集し、学年幹事会で決定した重要事項を総会に報告し承認を求める。

第十一条 学年幹事会は毎年一度以上または支部長が必要と認める時開催し、次の諸事項について審議する。

1. 役員の選出
2. 会計報告
3. 事業計画及び事業報告
4. 会則の改正
5. その他の重要事項

第十二条 幹事長は常任幹事会を召集する。

第十三条 会議の決議は出席者の過半数の同意を必要とする。

〔会 計〕

第十四条 年間会費は2,000円とし、会報の発行をはじめ事務連絡費・通信費等運営資金に充てる。ただし、学生からはこれを徴収しない。

第十五条 この会の会計年度は毎年1月1日から12月31日までとする。

〔付 則〕

第十六条 この会則は1986年1月14日から発効する。

支部会則が発効しました

二千円の年会費納入にご協力を

関東支部の会則が去る一月間開かれた新年総会で承認され発効。同窓の皆様から年間

会費として一人二千円を頂くことになりました。ご協力の

ほど宜しくお願い致します。

◆会費納入方法◆

〔郵便振替口座〕

東京7-142816

「土佐中・高同窓会関東支部事務局」あて振込み。

または各学年の幹事に直接お渡し下さい。

接お渡し下さい。

二千円の会費制は、支部活動を支える柱です。現在関東支部の会員数は約二千人。総会案内の通信費だけでも二十万円ほどかかります。従来は広告代や寄付などでまかなってききましたが、今後予想される会員増に対処するとともに、支部活動をより一層充実したものとするため会費制の導入を検討されてきました。昨年六月の常任幹事会、十月の学年代表幹事会で慎重な討議がなされた結果、会則の原案が決定し、新年総会で承認されました。

インタビュー

この六月に文部事務次官を勇退したばかりの、宮地貫一先輩(21回)を訪ねた。長浜の生まれで、東大法学部を卒業後文部省に入り、土佐出身者では初めての事務次官として活躍した。

——土佐中の思い出から

「昭和十四年に潮江小からすぐ隣の土佐中予科二年

(小学六年相当)に入学した。着物のオ

ンチャンがなんと五年生で、びっくりした。担任はカマスこと吉本先生だった。同級生では日、〇、須藤勉(故人)が軟派の代表格。禁止されていた映画館へ行った。阿部家(後の高知大学長)へ美人のお嬢さんを見に行ったり、戦時中といえ、結構楽しんでた。



前文部省事務次官 宮地 貫一氏 (21回生)

一年上に何某というイバ人間がおった。同級生一同で、高知城のスベリ山へ呼び出して、シナイでさんざんぐなりつけた。後輩の尊敬を集めていた秀才は、伴正一(17回)さん。なにしろ試験の成績や作文は、みんな廊下に張り出すから、一目瞭然」

——戦後の東京では

思ふことがないよう、ぐでんぐでんになるまで飲むと翌日すっきりする。しかしコッパ酒をおおるほうなので、中休みに歌を歌う。歌は新しい演歌。肴は土佐の鮮魚に限る」

こう言って取り出したのが、なんとこの日発売の「浪花五木ひろし」の一面。先輩はカラオケ泣かせである。とび切りの新曲ばかり要求するので、まずテープがない。ピアノの生伴奏となる。文部省きっての酒豪といわれ、並の官僚とは行動が一味違う。

——最後に母校や郷土へ
「司馬遼太郎さんが、四国四県でも高知が一番落ち込んでいたといっていた。子どもに能力には差がないわけ、家庭や先生がどう伸ばしてやるかが問題だ。他県の学校がどんなに努力をしているのか、高知の人達は認識不足ではなからうか」

「二十七年の文部省入省前後、近藤久寿治先輩(6回)には大変お世話になった。結婚したばかりの僕達は、大泉の近藤家にころがり込み、一部屋借りて住んでいた。長男(筑波大講師)もそこで生まれた」
——大変な勤務をどう乗り越えたか、気分転換法は「酒と歌。前日のことを思い

出版レター

「基田先生はだか日記」

田内瑞穂著

田内先生「古典」の体験録増補版。カマス、タコ、オンカンなどの「名物教師」の巻他。定価一、三〇〇円。四国写植発行。高知市朝倉一八〇

一四。電話四四一六〇二二。代表。永野和安氏(三四回)

●出版情報

マ倉橋由美子氏(二九回)「シュンボシオン」福武書店。定価一、五〇〇円。「最後から二番目の毒想」講談社。定価一、一〇〇円。

マ島本征彦氏(三五回)「武市半平太」沖積舎。定価二、五〇〇円。

マ塩田潮氏(四〇回)「首領は何を見たか」講談社。定価一、二〇〇円。「誰が闇将軍を倒したか」文芸春秋。定価一、二〇〇円。

マ進藤貞和氏(三三回)三菱電機名譽会長の「私の履歴書」日経新聞が七月一日から連載中。

マイペース・マイプラン

——息切れせずに、コツコツと……

定期積金

積立
(相互掛金)

定期積立

定期積立

高銀

高知相互銀行

随想

母校をみんなでもり立てよう

浅井 伴 泰 (30回)

昭和六一年五月二四日の神宮球場。対立教戦とたん場九回一死、東大浜田主持(五八回生)のバットが空を切り、東大野球部の通算、輝ける一、〇〇〇敗として、マスコミの話題になった。東大野球部史上最多一七勝投手の岡村甫氏(三三回生)、キャプテンとして活躍した片山直久氏(三八回生)もそれぞれの青春に思いを馳せたことだろう。

東大合格者数で
学芸にぬかれる

東大といえば母校のことが気がかりである。今春の入試で母校の東大合格者数が一〇対九(現役七対四)と初めて学芸の後塵をはいした。もっとも他の大学への実績では、いぜんとして優位に立っている。東大合格者数だけでなく、

大さわざするつもりはないが、時代が続いた高知の教育界は、必ずしも樂觀を許さない状況のようだし、スポーツ面でも以前ほどの精彩がない。それらを反映してか、中学進学者の県外への流出もかなりの数にのぼっており、しかも母校入試上位成績者の流出比率が高いという。このままの状態が続けばゆゆしき問題だ。

当面のライバル学芸高は、父兄の要望にこたえて、浪人生のための予備校「高知学芸進学アカデミー」を四月から開校し、アフターケアーに力を注ぐ。一方、福島清三氏(二九回生・土佐染々長)は、少数精鋭の英才教育を目的とした中学・高校を開校する予定で、皮肉なことに故大嶋校長の二子息が校長に就任されるという。比較的平穏な鎮国

母校に志願者調査対策委が発足

このような情勢に対処するために、最近母校では、先生方の総意で、「土佐中・高志

県体 5年ぶり優勝の庭球

バドミントンは4年連続

インターハイ予選を兼ねた県高校体育大会は五月間かれ、土佐高は庭球男子が五年ぶりの優勝を飾った。またバドミントン男子は四年連続優勝、単・複併せて完全制覇した。一方、春季選手権、市体と制したハンドボール男子も追手前を下して優勝。

顧問調査対策委員会」が発足したと聞く。多少おそきに失した感はあるが、その成果を期待したい。また在校生の学力向上策も具体的に検討されていると思うが、その効果の一日も早く、上がることを祈る。学芸の教師集団が危機意識をもつて、一致団結して燃えたように頑張つてほしい。先生たちのやる気を、ひき出すのは校長であり、サポーターするのは理事会だ。

高知財界の重鎮で構成されている理事会に、同意生代表として中島曉氏(十回生)、

崎・河井田(土佐)マ女団体三位。

「ハンドボール」男優勝
個人男子で土佐高三年の山下桂志君が優勝。また団体も土佐(掛本、寺尾、門田)が優勝、八月の全国大会(東京)に出場する。

◆全日本リコーダーコンテスト金賞に吹奏楽部。

このように情勢に対処するために、最近母校では、先生方の総意で、「土佐中・高志

県体 5年ぶり優勝の庭球

バドミントンは4年連続

インターハイ予選を兼ねた県高校体育大会は五月間かれ、土佐高は庭球男子が五年ぶりの優勝を飾った。またバドミントン男子は四年連続優勝、単・複併せて完全制覇した。一方、春季選手権、市体と制したハンドボール男子も追手前を下して優勝。

顧問調査対策委員会」が発足したと聞く。多少おそきに失した感はあるが、その成果を期待したい。また在校生の学力向上策も具体的に検討されていると思うが、その効果の一日も早く、上がることを祈る。学芸の教師集団が危機意識をもつて、一致団結して燃えたように頑張つてほしい。先生たちのやる気を、ひき出すのは校長であり、サポーターするのは理事会だ。

高知財界の重鎮で構成されている理事会に、同意生代表として中島曉氏(十回生)、崎・河井田(土佐)マ女団体三位。

「ハンドボール」男優勝
個人男子で土佐高三年の山下桂志君が優勝。また団体も土佐(掛本、寺尾、門田)が優勝、八月の全国大会(東京)に出場する。

◆全日本リコーダーコンテスト金賞に吹奏楽部。

にゆうす★らうんじ

●六一年前半支部活動報告

▼一月十四日 新年総会(銀座・東急ホテル)▼一月二十五日 関西支部総会(大阪・新阪急ホテル)へ浅井幹事長ら二名出席▼二月十四日 常任幹事会(日本鋼管高輪クラブ)

▼六月六日「筆山」編集会議
●母校からのお知らせ
▼65周年記念同窓会総会

月二十七日(午後四時半から高知・三聖園。会費は四千元(学生二千円)。講演：宮地貫一氏(二回・前文部省事務次官「今日における教育の課題」)

▼新名簿作成中！ 同窓会本部では現在新名簿の作成中で本年末には完成の予定。住所等の変更はお早めにご連絡を。

●同期会をしました
▼三回 六月七日
昼の部 富士小山G.C.
夜の部 渋谷東急文化会館
出席者は36名
●事務所移転

▼三陽美術印刷株式会社

(二八回・東條福夫氏) 島区南大塚三丁目三八一三(正和ビル)電話〇三九八一
一三〇七九・五九六二(六一・二七より)

▼六本木司法書士合同事務所

(四一回・横原温幸・鶴和千秋両氏) 港区西麻布一八二〇エメロード西麻布三階
電話〇三三四七〇一〇五五
(六一・四・一五より)

▼日章造園株式会社(三三回)

澤村良節・千原望南氏 目黒区下目黒三十八一五。電話〇三三七一六・三三二一(六一・七・一より)

●筆山会だより

▼三根校長墓参の会

第十一回三根校長墓参の会は七月十九日(午後行われ、多摩墓地での墓参のあと、深大寺そば屋で懇親会を開いた。

▼第10回筆山会ゴルフコンペ

第10回筆山会ゴルフコンペは6月29日、小雨の千葉国際C・Cで行われた。北岡支部長をはじめ二二名が参加、土

佐井で舌戦をくりひろげた。

①野波博泰	26回	86	G
②浅井博泰	30回	90	H
③浅淵真清	32回	95	21
④宮川洋治	33回	88	25
⑤竹崎 正	48回	98	18
⑥北岡龍海	5回	88	70
⑦山本高敏	25回	73	68
⑧近沢節夫	26回	70	N
⑨大町 玄	30回		
⑩阿部辰雄	30回		
⑪澤村良節	33回		
⑫堀内英生	33回		
⑬浮角与之	33回		
⑭和田 徹	37回		
⑮藤沢 信	37回		
⑯竹内章敏	37回		
⑰中島 宏	38回		
⑱谷 隆	38回		

次回は11月8日(日)に、野波氏、澤村氏が幹事で行う予定。
●おらんくことばでんこもり
高知市文化振興事業団が昨年出版した「高知県方言辞典」に掲載された土佐弁一万五千語をあいいうえお順に並べ、大型ポスター大の一覧表に印刷した「おらんくことばでんこもり」(二部八百円)が発売された。問合せ〇888・73・4365同事業団まで。

●編集後記

旧制高校卒業生や、共学だった母校が女子高(男子校)に変わってしまった人々は、後輩や同性的の後輩が新たに誕生しないということで、かなりのさびしさを味わっているのではないかと想像される。

母校の地盤沈下が著しい、ということも、母校が母校でなくなってしまうようなさびしさを覚えるものだ。一日も早く元の活力をとりもどしてもらいたいと願うこと切である。

今回は四名六冊しか紹介できなかったが、今後とも会員の著者や訳書を掲載したいと思います。発行の節には事務局までご寄贈ください。また、同期会を催した場合は一報ください。

ゆたかなくらしのパートナー



四国銀行

東京支店/千代田区内神田1-13-7
(電)03-281-3411
本店/高知市南はりまや町1-1-1

有利で便利な
●期日指定定期みっぴ

●1年利付で高利の●1年間の満期後は無利息

ふりなく貯まる

●自動積立定期ふゆみ

●1回ごとのお預け入れを「あつぱ」でお積み立て



どうもよろしく/
(四銀)の強力コンビです。